

## 「べにふうき」緑茶の抗アレルギー効果

篠田 有希<sup>1</sup>、渋市 郁雄<sup>1</sup>、山本 知広<sup>1</sup>、山本（前田）万里<sup>2</sup>、藤澤 隆夫<sup>3</sup>、増田 佐和子<sup>3</sup>

<sup>1</sup>アサヒ飲料(株)、<sup>2</sup>(独)農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所

<sup>3</sup>(独)国立病院機構 三重病院

アレルギーは年々増加している過度の免疫疾患であり、全国民の約 30%が何らかのアレルギー疾患に罹患しているといわれている。特に小児から青年にかけての罹患率の増加は著しく、20 歳代のアレルギー体質の保有率、すなわち特異的 IgE 抗体陽性率は 70~80%に達し、薬の副作用や医療費の増大が危惧される。

「べにふうき」（茶農林 44 号）は、紅茶・半醗酵茶系品種として(独)農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所にて育成され、1993 年に農林登録された品種である。この「べにふうき」は、他の食品素材と比較しても抗アレルギー作用が高く、他の茶品種と比較すると特異的にエピガロカテキン-3-*O*-(3-*O*-メチル)-ガレート(メチル化カテキン)が多く含まれている。

「べにふうき」緑茶飲料のスギ花粉症に対する飲用効果を確認するため、二重盲検によるヒト臨床試験を実施した。被験飲料として「べにふうき」緑茶飲料 350ml、対照飲料として「やぶきた」緑茶飲料 350ml とした。なお、茶に含まれているカテキン、カフェインなどは、これまでに抗アレルギー活性が報告されていることから、メチル化カテキン以外のカテキン、カフェイン含量は全て同等となるように両飲料を設計した。試験期間中は被験者に 1 日 2 本の「べにふうき」緑茶もしくは「やぶきた」緑茶を摂取させ、これにより「べにふうき」緑茶摂取群におけるメチル化カテキンの摂取量は 34mg/日とした。被験飲料の摂取期間は 14 週間とした。被験者はスギを主抗原とする季節性アレルギー性鼻炎の症状を有しているものの、日常は健康な生活を営んでいる 20 歳以上の男女 51 名にご協力いただいた。日誌によるアレルギー自覚症状〔鼻症状（くしゃみ、鼻汁、鼻閉）、眼症状（眼のかゆみ、流涙）〕を 5 段階に点数化して評価するとともに、JRQLQ を用いて QOL の評価を行った。また、耳鼻咽喉科医師による問診、鼻鏡検査を実施した。その結果、スギ花粉飛散期の自覚症状における鼻症状の総スコア、眼症状の総スコア、QOL の点数において、「やぶきた」緑茶摂取群に比べ「べにふうき」緑茶摂取群が有意に軽症で推移した。その他医師による問診の結果から、両被験飲料の摂取に起因すると思われる有害事象は観察されなかった。以上より、「べにふうき」緑茶はスギ花粉症有症者の症状軽減に有効であり、なおかつ安全な飲料であることが確認された。また、通年性アレルギー性鼻炎有症者でも、長期飲用により「やぶきた」緑茶に比べ有意な軽減効果が認められている。

弊社では、「べにふうき」緑茶を用いた緑茶飲料を開発し、2008 年から全国発売している。

「べにふうき」はアレルギーの方の QOL 向上を期待できる茶品種であるので、今後、他の飲食品への利用の検討も進めていきたい。